

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野八幡小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	年度末評価 (2月)

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<p>&lt;学習上の課題&gt; 学習した内容の意味についての理解に課題が見られる部分がある。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 児童の実態に応じた授業づくりや個別の指導に対する時間の確保ができない。</p>	⇒ ドリルパーク、スタディサプリを活用し、反復・習熟の学習に取り組み、個に応じた課題の解決と、「知識・技能」の定着を図る。【月に1度の実施】スクールダッシュボードを活用し、授業中に児童が自らの学びを振り返る時間を設定する。児童の振り返りをもとに、授業者もさいたま市「アクティブ・ラーニング型授業」、学びのポイント「J・I・S・Y・K」の実践に取り組むようにする【毎時元設定】。
思考・判断・表現	<p>&lt;学習上の課題&gt; 問題場面の把握や根拠を明確にした考えをもつことに対し、課題が見られる。</p> <p>&lt;指導上の課題&gt; 学びの個性化、協働的な学びの時間の確保が難しい。</p>	⇒ ICTなどの活用を通して、共同編集の活動を取り入れ、児童間での考え方の共有や説明場面などを設定し、さらに児童一人ひとりが、より多角的に思考し、学習を深めていけるよう、授業展開を行っていく。また、単元ごとに自分の考えを表現できる場を設定し、協働的な学びの時間を確保していく。【毎単元設定】

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語と算数、いずれの教科も全体的に概ね良好である。国語において、語句(漢字)の定着においてやや課題が見られた。ICT機器を効果的に活用しながら、朝の学習の時間や授業の中で、自らの学びを振り返りながら、反復する時間を設ける必要があると考える。R6年度全国学力・学習状況調査「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたが」における肯定的な回答の割合は95%であった。引き続き、さいたま市「アクティブ・ラーニング型授業」、学びのポイント「J・I・S・Y・K」の実践をとおして、子どもの主体性を引き出ししながら、学習内容の定着を図るよう指導していく。	
思考・判断・表現	国語と算数、いずれの教科も全体的に概ね良好である。R6年度全国学力・学習状況調査「ICT機器を活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」や「ICT機器を活用して、友達と協力しながら学習を進めることができる」における肯定的な回答の割合はいずれも95%以上であった。引き続き、ICT機器を効果的に活用しながら、協働的な学びを展開することをとおして、子どもたちの思考力・表現力・判断力を高めていく。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告	中間期見直し	
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	授業の始めや朝の学習の時間にドリルパーク等を活用した漢字や計算の反復練習の結果がテストへの効果に表れた。引き続き、漢字学習において、デジタルとアナログを効果的に組み合わせ、学習の内容の定着を図っていきたい。	変更なし
思考・判断・表現	A	本校の学校課題研究「基本的な資質・能力を基に、自律的、探究的に学び続ける児童の育成」をとおして、1人1時間の公開授業を計画的に進めていく。ICT機器(Canva)を効果的に活用しながら、ルーブリック評価、指導の個別化、学習の個別化、協働的な学びについて引き続き研究、実践をしていく。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)